

●今月の法語カレンダー●
仏は教を説いて 人々を救い
真実の利益を 恵まれる

先日仕事で坂本龍一さんにお話を伺う機会がありました。音楽家としての活躍はもちろんです。平和問題や環境問題にも積極的に活動されています。その活動の一環で築地本願寺境内にオープンした「カフェ・ド・シンラン」をプロデュースされたことが縁でした。仏教こそ平和への道しるべとなり環境への優しさとながらる教えです。それは利益を得るのではなく、恵まれているのに感謝して生きていく教えだから。今あるものに感謝して生きる道を示してくれるのです。それこそが真実の利益といえましょう。

10月の行事

- 朝の日曜礼拝 午前7時
- 7/14/21/28
- 仏教講座会
- 20日(土)午後1時半
- 【講師】筒井裕美子師
- 写経会
- 20日(土) 入退室自由
- 午前11時〜12時半
- 婦人の集い 11日(木)
- あそか園ボランティア

- 仏婦50周年記念大会
- 9日(火) 東京プリンスH
- 納骨合同参拝
- 6日(土) 午前10時
- ボラン寺(寺報送作業)
- 30日(火) 午前9時
- 雅楽教室
- 21日(日) 午後3時
- お経サークル
- 27日(土) 午後3時
- ヨーガ教室
- 10/24(水) 午後1時

- 京都念仏奉仕団
- 30日(火)〜1日(木)

11月の行事

- 報恩講・門信徒会入門式
- 23日(金) 勤労感謝の日
- おみがき 3日(土)
- 雅楽教室 22日(木)
- 納骨合同参拝 3日(土)
- 婦人の集い 9日(金)
- ボラン寺 30日(金)
- お経サークル 24日(土)
- ヨーガ 14/28(水)
- 写経会 お休み

寺報送作業「ボラン寺」

今月は30日(火) 午前9時です。寺報送作業をお手伝い下さい。協力よろしくお願ひします!



納骨堂合同法要ご案内

6日(土) 午前10時より、2F 納骨堂にて合同法要が勤まります。ぜひお参り下さい。



活動報告

★秋のお彼岸法要が

無事厳修されました。23日、映画監督の松林宗恵師をお迎えして、無事法要が勤まりました。秋らしく過ぎしやすい一日となり、多くのご門徒の方々とともに亡き方を偲び、浄土へと思いを致し、尊いご縁によりお参りをさせていただきました。

今年松林監督の映画上映会も行われ、皆さんと作品を楽しみました。

法要後には、長崎の「被爆クスノキ」の苗木の植樹式が行われ、松林先生にお手植えいただきました。平和のシンボルとして松戸の地に大きく育ってくれることを願っています。

ちなみに当日は地元テレビ局「コアラテレビ」に取材いただき、翌日のニュース番組で法要の様子が放送されたことも嬉しいこと

「あそか園」ボランティアに協力下さい!

「あそか園」とは、関東大震災の復興、築地本願寺が診療所を開設し、九條武子夫人(第2代門主鏡如上人の令妹)らが救護活動を行ったことに始まる、浄土真宗とは大変ゆかりの深い老人ホームです。

天真寺「れんげ会」(婦人部)では年に二回の奉仕活動が続いております。前回は使い捨て用の雑巾作り。たくさんの方の布をちよき切りしました。今月は11日(木)にご奉仕へと参ります。一緒に下さる方はお寺までお申し出下さい。ご協力よろしくお願ひ致します。



(前回活動の様子)

でした。お手伝い下さった門信徒会・婦人会の役員の方々お疲れ様でした。改めて感謝申し上げます。



植樹式の様子。ご協力ありがとうございました。クスノキの成長が楽しみです。

★10日には「婦人の集い」が行われ、お参り・法話の後、卵を使った可愛いポプリを手作りしました♪



★毎月第3日曜日の午後3時から「雅楽教室」が開かれています。現在11月の法要での初演奏に向けて練習中です!



10月の仏教講座会

【日時】 10月20日(土)午後1時半より
【講師】 筒井 裕美子師(北海道)本願寺派布教使
【講題】 「死なない生き方」
—どなたでもご自由にお参り下さい—

【講師紹介】

筒井 裕美子師

連続研修会中央講師、本願寺仏教子ども新聞編集担当として活躍です。武蔵野女子大学在学中、恩師雲藤義道先生に出遇われ、先生のお得度をされました。

現在は「小樽発子ども学校」を主宰し、絵本を通して子どもたちと触れ合い、絵本を用いてのご法話をしています。



今回は子どもからお年寄りまでみんなが大好きなドラえもんのお話「び太の結婚前夜」からご法話下さる予定です。どうぞ皆さん楽しみにお聴聞下さい。

天真寺では毎月仏さまのお話が聞けます。どなたでもご自由にお参り下さい。



合掌 天ちゃん



「メリークリスマス」に対抗して仏教は「メリーシヤカ」。若住職が友達僧侶と立ち上げた仏教を楽しむためのサイトです。4月8日にスタートした「仏教入門講座」第1回目の内容です。

「おシャカさまと

その時代について

おシャカさまとは...



おシャカさまの生没年代は、およそ紀元前6〜5世紀と考えて満足しなければなりません。研究書等にはいろんな年代が記されていますが、それらはすべて推定によっていて、絶対的なものはありません。また、インド古代史をひもとけば、アーリア人という白人種のインドへの侵入・定着や農

文化的・社会的な状況

思想も社会の状況と無縁ではな



く、仏教が、経済的には貨幣経済の進展期に興ったことを忘れることはできません。当時のインドと西方世界との貿易によって商品の流通が一般化し、貨幣による取引が常態化したころのインドにおシャカさまは登場しました。いわゆる商人、あるいは資本家的な人物が仏典に出ることはよく知られています。カースト制度などの身分的な制約よりも、貨幣を有している階層の方が重視された時代であったということでもあります。

政治的には、都市国家的な小国分立の時代から、専制君主による広領域支配の国家へと統一の時代といつてよいでしょう。おシャカさまの釈迦族の国が、隣国のコーサラ国に併合されて滅んでいったことに象徴的

耕文化の推進、あるいは、ヴェーダ（アーリア人の宗教・哲学の基本聖典）等といわゆるインド文化の構築といったことが述べられ、その後に仏教の創始が語られます。よって、おシャカさまはアーリア人種であろうと思うであります。けれども、アーリア人たちの文化とおシャカさまの国のそれとは大分性格が違うので、そう簡単には、おシャカさまをアーリア人であつたとは断定できません。

稲作文化を有していたこと、専制君主によらず代表による合議制で国の運営がなされていたことなどが理由でしょうか、一時、「おシャカさまモンゴル人種説」が唱えられたこともありました。私たちと同じような蒙古斑があつたとすれば、余計に親しみやすいことだとも思いましたが、今度は、いわゆる八頭身で鼻筋通つたかっこよいお姿が失われ

に現れています。すなわち弱肉強食の時代です。

こうして社会的に変動の時代がおシャカさまの生きた時代であると考えますと、その生き方、考え方がよく理解できるでしょう。この変動にもなつてヴェーダの権威が揺らぎ、伝統的なバラモン教への対する疑いの気持ちが芽生えてきた。それが、「六師外道」と総称される新しい思想家たちの活躍につながるのです。沙門、これは今では僧侶の呼び名になっていますが、本来はバラモン（インド教の司祭者階級）に対する新しい思想家・宗教者を指す言葉です。伝統的なインドの考えにとらわれず、新しい観点で人間の生き方を見つめ直した人々たちです。おシャカさまもこの沙門の中の一人でありました。輪廻をいかに超克するか、祭祀による宗教的な救いが人々の本当の救いにつながる

てしまします。ずんぐりむつくりの、どうにも風采が上がらないおシャカさまになつてしまう（失礼）とも感じたものです。



仏陀立像(インド)

使用言語も、しかとはわかつておりません。梵語・サンスクリット語がそうではないのかとおっしゃる方もあります。しかし、これは雅語・文語(文章語)ですから、おシャカさまがこれを用いて教化活動をしたわけはありません。やむなく、古代マガダ語などと仮によんだりしていますが、アショーカ王がマガダ地方の石柱等に記録した言語に近いものを想定してこう述べているだけで、この名に相応した言語の実体が確かめられているわけではないのです。何しろおシャカさまは一つも書物を残しませ

るか、こうした問題を真摯に追求していったのです。すなわち、文化的には、社会的な変動の影響を受けて、新しい時代により適合した思想的な営みが積極的に進められていた時代であつたといえましょう。

中国の春秋戦国時代という、各種の新しい思想が沸騰した「諸子百家」の時代を思



います。社会が新秩序を目指して混乱した時代だからこそ、新しい思想・考え方を生み出される。仏教はこのような時代に登場したのです。ですから、仏教は体制の維持存続のための緩衝材などではないのです。

【講師】相馬一意先生
(龍谷大学教授)

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。
第2回目は「おシャカさまの教えの基本」です。

んでした。教えは記憶によって長らく伝えられ、文字に写されたのは、早くて紀元前1世紀末です。少なくとも見積もっても6・7代の弟子たちの間は、仏教は口伝で伝えられたのです。ですから、現存経典に用いられている言語は、おシャカさまの使用言語とはあまり関係がないのです。

おシャカさまについてはこうしたわからないことだらけなのです。にもかかわらず、仏教がこれまで連続と伝えられてきて、現代人の精神生活に大きな影響を与えている、そのことの凄さを考えて欲しい、と訴えておきたいと思えます。おシャカさまによって創始された教えが現代でもなお大きな力を持ち、私たちの文化を裨益している、そしてこのインターネットの時代にも通用している。これは驚くべきことでありましょう。



インド

仏跡巡拝の旅

参加者募集中!

インド仏跡巡拝の旅

誕生から涅槃の地まで、お釈迦さまの足跡を巡拝する旅です。この機会にインドを訪れてみませんか。ご参加お待ちしております。

【日程】平成20年1月20日(日)〜30日(水)
【旅行代金】¥318000
【申込〆切】11月末日

門信徒会入会のご案内

どなたでも入会いただけます。毎月、寺報と仏教冊子をお送りします。年会費3千円。

(発行元)

浄土真宗本願寺派 天真寺
千葉県松戸市金ヶ作106
047-3389-0808
【ホームページ】
<http://www.tenshi.or.jp/>